

令和3年9月分

令和 3 年 9 月 30 日

# バイオマス比率計算書

## 1. ごみ質測定年月日

令和 3 年 9 月 7 日

## 2. バイオマス比率

バイオマス比率  $\eta_b$  = 
$$\frac{H_{lb}}{H_l + H_f \times f} = \boxed{57.324} \quad [\%]$$
  
(小数点以下第4位四捨五入)

$H_l$  : 廃棄物全体の1kgあたり湿ベース低位発熱量[kJ/kg]  
 $H_{lb}$  : 当該廃棄物に含まれるバイオマスの1kgあたり湿ベース低位発熱量[kJ/kg]  
 $H_f$  : 助燃剤の低位発熱量[kJ/kg]  
 $f$  : 助燃剤の混合比[kg/kg](廃棄物1kgを焼却する際に用いる助燃剤の量[kg])

$H_f = \boxed{0} \text{ [kJ/kg]}$  $f = \boxed{0} \text{ [kg/kg]}$

$$\begin{aligned} H_l = & \left[ 16000 \times \frac{\boxed{0.406}}{\text{紙類の重量比[kg/kg](乾ベース)}} + 17300 \times \frac{\boxed{0.062}}{\text{厨芥類の重量比[kg/kg](乾ベース)}} \right. \\ & + 17900 \times \frac{\boxed{0.264}}{\text{草木類の重量比[kg/kg](乾ベース)}} + 18100 \times \frac{\boxed{0}}{\text{布類の重量比[kg/kg](乾ベース)}} \\ & \left. + 36000 \times \frac{\boxed{0.217}}{\text{プラスチック類の重量比[kg/kg](乾ベース)}} \right] \times \left[ 1 - \frac{\boxed{0.476}}{\text{全体の水分比率[kg/kg](湿ベース)}} \right] \\ & - 2500 \times \frac{\boxed{0.476}}{\text{全体の水分比率[kg/kg](湿ベース)}} = \frac{\boxed{9,345.649}}{\text{(小数点以下第4位四捨五入)}} \text{ [kJ/kg]} \end{aligned}$$
$$\begin{aligned} H_{lb} = & H_l - \left\{ 36000 - 2500 \times \left( \frac{\boxed{0.27}}{1 - \boxed{0.27}} \right) \right\} \\ & \times \left[ 1 - \frac{\boxed{0.476}}{\text{全体の水分比率[kg/kg](湿ベース)}} \right] \times \frac{\boxed{0.217}}{\text{プラスチック類の重量比[kg/kg](乾ベース)}} = \boxed{5,357.302} \text{ [kJ/kg]} \end{aligned}$$

紙類の低位発熱量: 16000[kJ/kg](乾ベース)

プラスチック類(ビニール, 合成樹脂, ゴム, 皮革類)の低位発熱量: 36000[kJ/kg](乾ベース)

厨芥類の低位発熱量: 17300[kJ/kg](乾ベース)

水の蒸発潜熱: 2500[kJ/kg]

草木類(木・竹・わら類)の低位発熱量: 17900[kJ/kg](乾ベース)

プラスチック類の水分比率: 0.27

布類の低位発熱量: 18100[kJ/kg](乾ベース)

※紙類と布類を分類せず、紙・布類として分類している場合には、紙類の低位発熱量をもって紙・布類の低位発熱量とする。

※紙類、厨芥類、草木類、布類、プラスチック類の他に不燃物類、その他類の重量比を合計すると1[kg/kg]となる。

※紙類、厨芥類、草木類、布類、プラスチック類の乾ベース重量組成比および全体の水分比率は旧厚生省通知(昭和52年11月4日環整95「一般廃棄物処理事業に対する指導に伴う留意事項について」)に従って測定する。